

お取引様 各位

お客様アンケートご報告

拝啓 貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。
毎々格別のお引き立てを賜り、ありがたく厚くお礼申し上げます。
さて、このたびはご多忙の中、弊社業務に関するアンケート調査にお応えいただき、誠にありがとうございます。

今回ご意見を頂戴した中で、蟻やコバエに関するご意見を多数いただきました。
そこで、発生要因や応急的な対処に関してここで掲載させていただきます。

ぜひご参考にしていただきませ。

まず今月はコバエに関してご説明します。

一般的にコバエとは総称の呼び方になります。
種類としては、チョウバエ・ショウジョウバエ・ノミバエなどが挙げられます。

～チョウバエ～

チョウバエは水回りの水捌けが良くない箇所(什器下、排水溝やグリストラップの溝等)で水が溜んでしまい、そこにウジがわいてチョウバエが発生してしまうケースが多いです。



日頃からトイレや厨房内の水捌けが良くない箇所の清掃が大切になります。また発生してしまった場合、水捌けのよくない箇所に対して熱湯や漂白剤を薄めた水を流すとウジや幼虫は死んでいきます。定期的に継続して行うとより効果的です。

ただチョウバエは屋内の浄化槽内等にも発生する事もあり、その場合は個人で対処するのは困難です。本格的な駆除につきましては、ご相談くださいませ。

～ショウジョウバエ・ノミバエ～

ショウジョウバエ・ノミバエは腐敗した物質(ショウジョウバエは生ごみ等、ノミバエは動物物質(肉等)に発生します。

夏場は生ごみや残飯を放置しておくすぐに腐敗して発生要因になってしまいます。対策としては、市販の殺虫剤で簡単に駆除できますが、要因の生ごみ等を早めに処分し、屋内に長く置かない事が重要です。



また調理を多くされる飲食店等では調理中に食材が什器下等に落下して、そのまま放置という事が無いように普段の清掃を気を付けていただくより良いでしょう。

コバエは春～夏、夏終わりから秋頃にかけて発生が多くなります。
弊社では発生のサイクルにあわせた本格的な駆除システムがありますので、発生要因、発生状況等に関して何かあればご相談くださいませ。

敬具

2月よりアンケート調査を毎月行っております。
引き続きご協力いただければと存じております。

アンケート専用FAXのフリーダイヤルを設置しておりますので、こちらをご利用くださいませ。

お客様アンケート
お問い合わせ専門FAXフリーダイヤル

見ないムシ

0120-32-3164

※一都八県以外はご利用出来ません。
(東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・茨城・群馬・山梨・静岡)

FCC News

2012年9月号 No.0101



Index

お客様アンケートご報告

社長コラム&社員コラム

季節のムシ暦(58)

FCCエコ委員会からお知らせ

生活の豆知識

株式会社FCC



〒251-0043

神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

Tel 0466-31-3164

Fax 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp



社長コラム



やっぱりこうなる

夏休みだって言うのに殆んど会社に来ています。別に社員や他にアピールでも何でもないので。私の趣味みたいなもの。

社員にはもっと福利厚生を充実させて、労務を改善させ、休みも増やそう、と考えているくらいです。でも私は経営者なので、気になるし、いつも仕事が優先です。

今年も苦戦しています。仕組みやオペレーションを組み直します。本当はいけないんだけど、心配にもなります。会社に来ると落ち着く。そして安心に切り替えます。

会社に来て、色々一人で考えます。当社には管理職不在なのが痛い。新入社員もトップの私からの指示を、自分で咀嚼して仕事をしなければならぬ会社です。

もし、私が当社の新入社員なら、自分が管理職になってその仕事を仕切ろう、って考えます。チャンスだと思えると思うんです。実際そうでした。

しかし、今は時代が違うし、なにより皆私とも違う。でもこのメンバーでやっていくので、仕組みを作るしかありません。そして成長してもらえる環境を作るしかありません。

中小企業はみんなそう。モチベーションも私が率先して上げるしかありません。いつかきっと私も10日間や1ヶ月旅行に行ってもビクともしない会社を作る!

そんな事をお盆休みの休日出勤で考えました。でも安心して任せられる管理職って、どんな奴だろうな?

まず正直な奴だな。言葉はなんでも言える。言葉は人を騙す事だって出来る。そんな奴がその言葉だけで人を引き付けまともな会社は崩壊する。

また幾ら誠実でも、周りばっか見ていたらリーダーではないし… 弱さと優しさは違う。主体性がないと、いつまで経っても用務員にしかたれない。

育てる。いや、自ら気が付いてもらえるような仕組みを築く。社員の素敵な個性が管理職には活きなかったら、そこは外部からも考える。

まだまだ…

でもがんばる。

湘南ではたらく小さな会社の社長のblog 2012年8月14日(火)より

パソコンからFCCブログをチェック!!

FCCニュースに掲載しているブログ記事以外にもFCCホームページには多くのブログがあり、業務の事や日常の出来事など様々なエントリーが投稿されています。

気になった方は

ゴキブリ駆除 FCC

検索

トップページから全てのブログにアクセスする事が出来ます。

FCC社員コラム

主体変容

本日は会社にて全体会議がありました。今回は社長より、松下幸之助のお言葉を用いた学びをいただきました。

「主体変容」

他人は変え難く、己は変えられる…、といった意味との事です。人に何かを伝えて心に届かせる、また人を変えていくのは難しいです。会社だけでなく社会における大抵の集団の中は常に人が流れていきます。

新しい社員が入れば会社の理念、また社会人としての基本を身につけてもらう必要があります。その為に、様々な事を伝えて指導していきます。(えらそうにすいません汗)

立派にやりがいを持って仕事をしてもらうためにも変わってほしい事もありますが、伝えてすぐに変わる事はなかなかありません。今日のお話の中にあつた様に、上司の前だけの返事・態度かもしれません。

どんなに良い教えが周りにあっても本人がそれに気付く事ができなければ、意味を成しません。

しかし、仕事の上では指導は必要です。

まだまだ私も学び変わらなければなりません。私自身もまだまだ気付いてないのかもしれない。

今日はいろいろとまた考える機会をいただきました。ありがとうございました。

もっと頑張ります!

日々を綴るウチダブログ 2012年8月11日(土)より

【生活の場のムシの殺虫剤(4)】

昔の夏は、鼻の頭に汗をかく爽やかな暑さであったが、今は、なんと「熱中症」で人が死ぬという状況だ。

また、「虫」は夏の付き物で、家の中に居ても当然で、不思議では無かった。だが、今はやや趣が違うようだ。

先項、夏の虫に関わることで、マスコミの取材に応じたが、それは、「薬品を使わずに人やペットが被害を受けないようにする。また、虫を入れないようにするには、どうすれば良いのか」と言うものであった。

この問いには、殺虫剤の専門家としては、一寸度ばかり違和感を憶えるものだった。しかし、認識を新にしたのは、「ペット」が「人」と同格になっていること、生活の場での殺虫と言う意識のうすれ具合だった。

これは、今日の人々の生活スタイルが、大きく変わったことを示すものである。それにしても、気になるのは、今の一般の人の言う「ムシ」が、何を指すのか、その問題性が、はっきりしなくなっていることだ。

こんな状況の中でも、人にとって、夏場の「虫」は、「ハエと蚊」らしく、人は、これを「退治」したいのだ。

だが、人は、「虫退治」と容易(タヤスク)く言うが、この歴史は、人類の誕生と共に始った作業であって、それも生易しいものではなく、「戦い」だった。

私たちは、今、「ハエ」の怖さを忘れてしまったが、それは、人によって征服され、餌馴らされた「イエバエ」しか知らないからだ。

それでも、この「ハエ」が、行政主導で「退治」の始ったのは、大正14年(1925年)で今からわずか87年前からで、まだ、100年にも満たない。

当時、この「ハエ」の害を防ぐために、必要な防除法が示めされているので、その主要な部分を紹介する。なお、その原典は、「蠅の害と其豫防(小林 晴次郎著、大日本衛生警察協会発行)」であることを参考までに紹介する。

ハエの害を防ぐには、「成虫」を退治するのが一番で、その方法には次のものが、あげられている。

- (イ) 室内に入れない
- (ロ) 人に触れさせない。特に、患者や汚れものを覆う
(患者を“蚊帳”で隔離する)
- (二) 寄せ付けない。

主要なことは、以上の通りであるが、考え方や方法は今と変わることはない。

【室内に入れない】

成虫を室内に入れないためには、発生源対策もあるが、既に、発生している状況では、侵入防止のために「網戸」などの設置と成虫の殺滅が、欠かせない。

その他に、屋内や周辺に「香(カオリ)のする薬品」を置くと良いとしている。これは今日で言う「忌避剤」である。

殺滅や忌避の材料としては、樟脳、ナフタリンがあげられている。また、石油を用いるのもよとしてしている。

この樟脳やナフタリンなどは、香気が強くと防虫剤として広く用いられていた。洗面所やトイレなどには、ボール状の製剤が配置されていた。

この特殊な香気に、「虫よけ」効果を期待したものだが、効果の程は定かではない。しかし、当時としては、安価な製品ではなかった。

今日、虫よけ製剤に「ハーブ類」を配合したものが、市場にあふれているが、その源流は大正時代にある。

なお、効果の程も大正時代の期待感であれば、満足出来るものである。また、医療技術の発達と普及は、この種の製品にとって都合が良い状態である。

また、この時代の成虫用の殺虫剤には、「除虫菊」製品が、重要な役割を果たした。なお使用法は、この製剤を撒く、掛けるで今日のピレスロイド時代の草分けである。

この時代は、散布よりも食べさせて殺すと言う考え方が強く、今で言う「毒餌」、ベイトの時代であった。当時、成虫退治に殺菌防腐剤の「フォルマリン」が使用されていた。

これは、ベイト剤でフォルマリンを水で希釈し、砂糖を加えて「食パン」に含浸させて用いたようだ。

また、この「フォルマリン」が手に入らない場合には、植物のバイケイソウ(シノメソウとも言う)、シユロクサ、アオヤギソウ、ハエドクソウ、ハエトリシメジなどで、毒餌を作ったようだ。

面白く、不思議なのは、「フォルマリン」は殺虫力が無いとされながらハエ成虫の「毒餌」に使用したことだ。殺虫剤には、こんな不思議もあるのだ。

【写真説明】

生活の中に密着した“防虫剤”は残し香を残さない。これが面白い所なのだ。



生活の豆知識

チョウバエについて&対策

さて、この時期になるとお客様からチョウバエに関するお問い合わせやご相談が増えてきます。主にフロアや厨房に飛んでいて困っているということです。

このチョウバエは厨房やゴミ捨て場などで発生し群れなします。世界中で2500種、日本国内でも約250種が確認されていますが、人家内で見られるのは中でもほとんどがキイロシヨウジヨウバエ、クロシヨウジヨウバエです。

成虫の体長は2~3mm、体色は黄褐色から暗褐色、複眼は赤褐色から黒褐色。メスは羽化した後、3~4日で産卵します。生存期間は4日~10日程度ですが、その間に500個以上の卵を産みます。

この産卵場所として好まれるのが、よく熟した果物、ぬかみそ、味噌など私たちにとって身近なもの。特に酵母はチョウバエにとって最適な食品となるため、人間側としては「発酵食品」に特段の注意が必要ということです。

発生源としては主に、排水溝の壁面や蓋の裏、ドレンパンの底、グリストラップ、ゴミの溜まった箇所のスカムや、湿気や水分が残った箇所が挙げられます。缶コーヒーなどの飲み残しでも、発酵してしまえば十分発生原因になるので注意が必要です。

飲食店様においては、食品への『異物混入の可能性』を未然に防ぐためにも、チョウバエの対策が非常に重要になってきます。

まずは、食品や生ゴミをむき出しにしたまま放置しない事。食品や生ゴミから発するにおいに誘引される性質があります。その為、食品はラップや密閉性のある容器に入れて冷蔵庫や冷凍庫で保存して下さい。

● 生ゴミに関しても、蓋付きのゴミ箱に入れる様にして頂くと非常に効果的です。

次に清掃の徹底です。食材のカスや落ちてしまった食品、食材などをそのままにしていたり、清掃の際に水を床に撒いてしまう事で落ちてしまった食材カスなどが什器下の奥の方へ押し流されてしまうと、その食材カスなどは腐敗をし、よりチョウバエが誘引されやすい環境となってしまいます。

食材カスなどが落ちた場合は、その場ですぐに拾うようにし、清掃前に什器下に何か落ちたままになっていないかを確認して、もし落ちていた場合は拾って下さい。

他にも、排水溝やグリストラップのスカムやヘドロを除去を行い、発生しやすい場所(水が溜みやすい場所)へ熱湯や漂白剤を薄めたものを流し入れて頂くことも予防対策となります。

食材カスの放置は、ゴキブリの発生にも繋がってしまうので、害虫が繁殖しない環境作りの為にも是非実践してみてください。

FCCエコ委員会 からのお知らせ



弊社では、ペットボトルのキャップを集めて世界の子供たちにポリオワクチンを届けるための運動を行っております。ポリオワクチンは1人分 20円です。エコキャップ800個で1人の子供の命が救えます。

皆様のご協力により、今年1月から7月までで57,120個のキャップが集まりました。

71、4人分のワクチンと交換できます。誠にありがとうございました。

何気なく破棄していた小さな資源が大きな優しさに変わります

今年度は100人分のワクチンを目標としております。

引き続き、エコキャップの収集を進めて参りますので、ご協力いただける方はご一報くださいませ。

施工にお伺いした際にも、お引取りさせていただきます。

ご連絡お待ちしております!